

平成16年度 第1回 懇談会の概要

平成16年度第1回四国21世紀の道ビジョン推進懇談会が19日（木）、高松市内で開催された。

五ヵ年計画である「四国道ビジョン推進プログラム2003-2007」の着実な実現に向け、4県が取り組んできた、「平成15年度事業の達成度報告書 / 平成16年度事業の業績計画書」、四国内周遊と本四道路をパッケージにした有料道路の社会実験と地域の課題解決型社会実験の取り組みについて懇談会委員からご意見・ご提言を頂いた。

『主な意見』

- 平成15年度事業の達成度報告書 / 平成16年度事業の業績計画書について -

資料の見せ方に係わる意見について

- ・ 記憶に残るような資料を残す工夫を。
- ・ 道路をつくるということは、プラスのイメージがあった。今の時代の象徴かもしれないが、マイナスのイメージが多い印象。
- ・ やったところだけがわかっていて、やっていないところでは、どうなっているのかわからない。仕分けがいるのでは。
- ・ どこができていて、どこがまだできていないのか、一般に示すのであれば、そこを明確にする必要がある。

成果指標に係わる意見について

- ・ 政策テーマに対する指標が不足している。活力は渋滞を減らすだけではないのでは。
- ・ 地域活性化の視点からの効果もある。道路整備によって、地域にもたらした経済波及効果、数値的なものと事象的なものをいれる工夫を。
- ・ 指標が一般には全然わからない。
- ・ どれくらい改善されたか、わかりやすい工夫を。
- ・ 全体の数値と個別事業の数値に矛盾がある。
- ・ 渋滞は減っているのに対し、事故が増えている。何が達成できていて、何が達成できていないのか、十分に説明できていない。
- ・ 住民の実感に合った指標になっていないのでは。（例 渋滞も時間帯で変わる。時間帯で変わるような指標とか。）
- ・ 住民の満足度調査が必要では。
- ・ デマンドサイドにたった指標、地域性に合った指標であるかどうか、考えて頂きたい。
- ・ 概要版は、ぱっとみて印象に残る努力を。これである程度、委員の意見を反映できるのでは。

- 四国の広域交流拡大に向けた有料社会実験について -

- ・ 一般車両が対象。根本的に問題なのは、事業車両。ドラステックな割引によるお客の稼働率をあげる工夫を。次年度に期待したい。
- ・ 半額とはいわず、3割くらいでもいいのでは。
- ・ トラックは、できるだけ国道を利用しようとしている。
- ・ 一般国道が整備されれば、されるほど、高速道路から少なくなる。地方は、都会型よりも温度差が低い。ますます事業者がつかわなくなるのでは。考えてもらいたい。
- ・ 事業者がエクスハイウェイを使えることが重要。事業者が一番使いやすい、社会実験をすることが大切。事故を含めた原因究明も分かりやすくなるのでは。
- ・ 来年は、愛知万博がある。そこから東へふれるか、西へふれるかが大きな課題。交流人口の流れからすると、来年はもっと強化してもらいたい。
- ・ 四国へたくさんの人を呼び寄せるためには、早く発表し、観光エージェントにどんどん使ってもらうこと。上期が勝負。観光客数もそのまま秋に流れ込む。
- ・ 農産物、水産物は時間との戦い。トラック運賃などが農産物から引かれるため、手元に残ってこない。
- ・ 高速道路が全部つながったときに、効果が発揮される。地域の活性化のために、四国8の字交流軸を早くつくり、もっとアピールしてほしい。
- ・ 実践化にむけた、それにふさわしい実験をすべき。社会実験することも大きな進歩だが、そこに満足してはいけない。そのためには、どんな実験をしたらいいのか、ということをきめ細かくすべきではないかと思う。本格的に議論を。
- ・ 実験をするまでに、事前に指標をきちんとしておくべき。事前にどういうルートを通って、どういう評価をすべきか示すべき。

- 四国らしい道路整備 (四国スタンダード)について -

- ・ 物理的に時間オーバー。基本コンセプトをここで発言しろと言われても難しい。
- ・ 具体的なイメージ、キーワードを9月中旬までに事務局へ意見いただき、ワーキングに反映してもらいたい。